

## 論文内容の要旨

報告番号		氏名	宮下 和也
Up-regulation of HHV-6B-derived microRNAs in the serum of DIHS/DRESS patients. (DIHS/DRESS患者における血清中HHV6B microRNAの変化)			

### 論文内容の要旨

背景: 薬剤性過敏症候群 (DIHS) は経過中にヒトヘルペスウイルス 6 型 (HHV-6) の再活性化を認める特異な薬疹として知られている。HHV-6 には、これまで、in vitro における研究から 4 種類の microRNA (hhv6b-miR-Ro6-1, -2, -3, -4) の存在が知られており、hhv6b-miR-Ro6-2, 3 は HHV-6 の感染 6 時間後に発現、hhv6b-miR-Ro6-1 は hhv6b-miR-Ro6-2, 3 より 2 日遅れて発現、hhv6b-miR-Ro6-4 は HHV-6 の感染 4 日後に発現することがこれまでに知られていた。今回、急性・亜急性期の DIHS 患者における、血清中の 4 種類の HHV-6 microRNA の発現および HHV-6 microRNA と臨床症状との相関の有無を調べた。

方法: 各々 10 人の DIHS 患者、播種状紅斑丘疹型薬疹患者と健常人の血清から HHV-6 microRNA を測定した。また、PBMC から HHV-6 DNA を測定した。

結果: DIHS 患者、播種状紅斑丘疹型薬疹患者、健常人の血清 HHV-6 microRNA を比較し、血清中の hhv6b-miR-Ro6-1, -2, -3, -4 はいずれも、有意に DIHS 患者群が高かった。DIHS 患者では、hhv6b-miR-Ro6-2 は HHV-6 再活性化前あるいは同時期に、hhv6b-miR-Ro6-1, -4 は miR-Ro6-2 発現の数週間後に発現する傾向があった。hhv6b-miR-Ro6-2 が高値の症例は紅皮症を呈する傾向にあり、hhv6b-miR-Ro6-2, -3 は発熱期間と正の相関があり、hhv6b-miR-Ro6-1, -2, -3 は DRESS score と正の相関にあった。

考察: 4 種類の HHV6 microRNA は各々異なる時期に発現する傾向があることから、生体内で異なる役割を担っている可能性が示唆され、DIHS 患者の臨床症状や重篤度を反映している可能性が推測された。また、hhv6b-miR-Ro6-2 については HHV-6 の再活性化の早期かつ特異的なマーカーとなりうる可能性が示唆された。